

[Hello from LONDON No.5] 2015年8月4日

皆様、こんにちは。マイスターの鈴木真紀です。長い間ご無沙汰してしまい、申し訳ありません。

去年、ロンドンで生活するようになってから、丸1年が経過しました。もっと早くレポートを書きたいと思っていたのですが、年末以降は、引越し、船便の荷物の受け取り、仕事、日本への一時帰国などなど、バタバタしておりました。以前も書きましたが、私は、英国公認観光ガイド（ブルーバッジガイド）です。観光ガイドの仕事には「マニュアル本」のような物はなく、資格試験に合格したら、それぞれのガイドが自分のガイドスタイルを築いて行きます。もちろん、歴史的な事実などは決まっていますが、お客様にどうやってお伝えするかは、ガイド次第です。同じ材料を使って、それぞれのシェフが自分流に料理を作るのと似ています。私が取得している資格は、イングランド、ウェールズ、北アイルランドを網羅していますし、実際のところ、時々スコットランドでのご案内もしますから、カバーする内容は際限がないほど多く、常に勉強、勉強の日々です。そんなところは、世界遺産を勉強していらっしゃる皆様も同様ですね。



そんな中、久しぶりにお休みが取れてフランクフルトへ行って来ました。フランクフルトには、5年前から長男が住んでいます。8月1日が我々夫婦の結婚30周年記念日だったので、そのお祝いも兼ねての旅行でした。もちろん、世界遺産も見学して来ました！『ヴュルツブルクの司教館』です。世界遺産検定にも、建築様式や内装に関して、よく出題されますね！実際に足を運んでみて、その規模に圧倒されました。詳しいガイドブックが販売されていますので（日本語版あり）、それを読みながら廻ることをお勧めします。ただし、皇帝ホールから「南側の皇帝の間」と呼ばれている5部屋に関しては、ガイドツアーに参加しないと入室させてもらえません。ツアー参加は無料なので、ぜひ、参加なさるといいと思います。有名な「階段室」、ストゥッコ装飾が美しい「白のホール」なども説明してくれる45分ほどのツアーです。上記の部屋以外は個人で廻ることができます。世界遺産には司教館の庭も含まれているので、ぜひ庭にも時間をかけて下さい。南向きに庭が作られているので、午前中の見学だと、庭園側からの司教館が大変美しいです。司教館と庭を合わせて最低でも2時間半から3時間の見学時間が必要です。

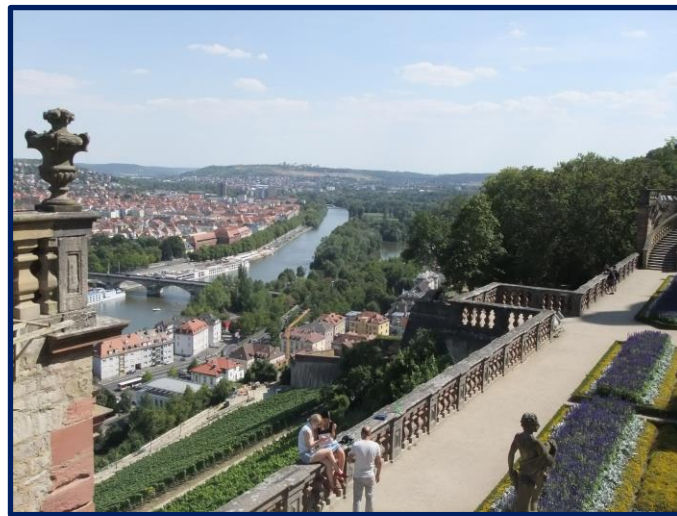
ヴュルツブルクは、斜面いっぱいにはぶどう畑があり、フランケンワインの産地となっています。司教館の見学の後は、ビュルガーシュピタルのワインバー&レストランでランチを食べました。沢山のワインの試飲をさせてくれて、その中から気に入ったワインを注文することができ、大変良かったです。昼の日中からアルコールを楽しめるのも旅の醍醐味のひとつですね！ かの大家ゲーテもフランケンワインを取り寄せて飲んでいただということですから、その美味しさには定評があるというものです。ドイツのワインは白が中心ですが、フランス産ともイタリア産とも違う、独特のフルーティな香りと味があります。また、同じドイツのワインでも、ラインワイン、モーゼルワイン、フランケンワインなど、微妙に味が違うのも興味深いです。ワインを飲んで、すっかりいい気分になりながらも、午後も食欲に見学を続けました。司教館が18世紀に建設される以前に司教が住んでいた、マリーエンベルク要塞も大変素晴らしい建物で、これが世界遺産の範囲に入っていないのは意外な気がしました。高台の要塞からの眺める市街地は絶景で、丘陵には、市街地ギリギリのところまでぶどう畑が広がっていました。マリーエンベルク要塞～ぶどう畑～アルテ・メイン橋～司教館や大聖堂を含む市街地全体に世界遺産の範囲が拡大することを願います。マリーエンベルク要塞を訪れた一番の目的は、博物館見学で、この中にドイツが生んだ中世最高の彫刻師、ティルマン・リーメンシュナイダーの作品群が展示されています。



私は、結婚前、海外旅行の添乗員をしていたのですが、当時のドイツ旅行の定番はロマンティック街道でした。必ず立ち寄った町のひとつにローテンブルクがありました。町の中心部にある聖ヤコブ教会の「聖血の祭壇」は、世にも美しい木彫り彫刻で、作者ティルマン・リーメンシュナイダーにすっかり一目惚れしまして、ローテンブルクへ行く度に必ずお客様をご案内していました。今回の旅を計画して初めて知ったのですが、ヴュルツブルクは、彼が住み、工房を構えた町だった為に、沢山の作品が保存されているのです。博物館見学の後も、大聖堂、ノイ・ミュンスター教会を訪れて、彼の作品を堪能しました。

ヴェルツブルクは、フランクフルトから特急で1時間10分、普通列車でも2時間と、簡単に日帰りができる圏内ですので、フランクフルトへいらっしゃる折には、ぜひとも行って見て下さい。本当に美しく、興味深い町です。

フランクフルト近郊の世界遺産としては、もう1件、『メッセルの化石採掘地区』があります。ウクライナやスロバキアとのトランス・バウンダリー・サイトとなっている原始ブナ林を除けば、ドイツ連邦共和国唯一の自然遺産です。残念ながら、時間の関係で今回は行くことができなかったのですが、次回は是非にと思っています。フランクフルトからだ、ケルンも比較的行きやすいですし、もちろん、『ライン渓流中流上部』も近いので、フランクフルトを基点にして、ドイツの世界遺産を訪ね歩くのはとても便利です。日本からの飛行機の便もとても良いです。



私の旅のもう一つの楽しみ=飲食においては、ワインばかりでなく、リンゴ酒、ビールも楽しみましたし、言うまでもなく、ソーセージとザウアークラウト（酢漬けのキャベツ）、ドイツ料理定番の豚肉の固まり！（笑）、ドイツ版トンカツとも言えるシュニッツェルも食べました。甘いもの好きの私がトライしたのは、アプフェル・シュトルーデル！ 私の故郷、神戸には、沢山のドイツ菓子店があるのですが、毎回立ち寄る「にしむら珈琲店」のそれが、私の好物なのです。でも、さすが、本場ですね。フランクフルトで食べたアプフェル・シュトルーデルも暖かいカスタードがかかっている、とっても美味しかったです。ちなみにアプフェルというのは、英語だとアップルです。本来は、オーストリアのお菓子だそうです、今や、ドイツ菓子の定番です。シュヴァルツヴァルト（ブラック・フォレスト）というケーキも有名ですので、次回は、ぜひ、トライしたいです。そうそう、ドイツ菓子と言えば、バームクーヘンがあまりにも有名ですね。ベルリン近郊がバームクーヘンの発祥地ですが、以前ベルリンへ行った時として知られているお店のお菓子を買って食べてみましたが、NO！ バームクーヘンは日本が一番と確信しました。バームクーヘンのブームで、日本では美味しいのが沢山作られています、私は、やはり子供の頃から食べていた、神戸のユーハイムのが、特に大好きで、わざわざ日本からイギリスへ持って来たりもしています！



もし、リニューアル・オープンした「姫路城」へお出かけの際には、ぜひ神戸へも立ち寄っていただき、神戸の美味しいパンや、お菓子を召し上がって下さいね。神戸は、日本でパン屋さんが最も沢山ある街、日本で最も沢山の紅茶を消費している街だそうです。美味しいパンとお菓子、紅茶を飲んで育ったことが、私の英国好きを形成してくれたのかもしれない！

それでは、今日はこの辺で失礼致します。今後は、もっと頻繁にレポートを書くように努力致します。日本と同様、英国でも新しい世界遺産『フォース鉄道橋』が誕生しましたので、次回は、そのお話をしたいと思っています。8月中旬に仕事でエディンバラへ行くことになっているので、きれいな写真を撮ってお目にかきたいです。お天気が良いことを祈っていて下さい。日本は、猛暑が続いているとのこと、皆様、どうぞご自愛下さい。ちなみにこちらは冷夏です。信じられないでしょうが、朝晩、暖房を入れ、夜は羽布団をかぶって寝ています。暑いのも大変ですが、半袖を着ることがない夏というのもちょっと……ですよね。2年前に宇治で食べた、宇治金時がなつかしいです。では、また！ お元気で！

世界遺産検定マイスター 鈴木 真紀